

香川県琴平町

素材研究
(国内)



江戸時代から続くという店が立ち並び参道には、訪日外国人旅行者の姿も自立します



785段の階段を昇って辿り着く金刀比羅宮の御本宮。その起源は大化の改新以前まで遡ります



讃岐うどんの手打ち体験では、自作うどんを食べることも持ち帰ることもできます



演じる側も観る側も一時、江戸時代の情緒に身を委ねる「四国こんぴら歌舞伎大芝居」の賑わい



琴平グランドホテルの近兼弘幸代表取締役

天保6年(1835年)に建てられた現存する最古の芝居小屋「金丸座」。「ブドウ棚」「かけすじ」など江戸時代からの仕掛けも復元されています

「こんぴら歌舞伎」軸に多様な魅力を展開 旅館組合も地域限定旅行業で商品化の努力

伊勢神宮のお陰参りと東京参りとともに、かつて庶民の三大行事の一つといわれた金毘羅参り。その金刀比羅宮の門前町として多くの観光客を集めてきた琴平町では、着地型観光の取り組みも着々と進められています。

海外の旅行会社がツアーを設定

英国の旅行会社トラファルガーは今年3月から12月まで販売する「Splendours of Japan with Hiroshima」という13日間の日本ツアーで、香川県琴平町に1泊する日程を組み込んでいます。

宿泊先となる琴平グランドホテルの近兼弘幸代表取締役によると、海外の旅行会社が年間を通じて設定するツアーに同町での宿泊を組み込むのは「今回が初めて」です。

「昨年の夏に日本の旅行会社から話があり、今年2月にはトラファルガーの担当スタッフも琴平町を訪れて、3月末の最初のツアーを皮切りに26本が設定されることになりました」(近兼社長)

「讃岐のこんぴらさん」で親しまれている金刀比羅宮のある琴平町は、門前情緒あふれる参道に江戸時代から続くという土産物店や飲食店などが並び、現在も年間250万人を超える参拝客で賑わっています。

しかし、1990年代以降の団体宿泊

客減少は琴平町も例外ではなく、観光地としての魅力を高めるために、交通アクセスの改善や同町での過ごし方の提案など、着地型観光の取り組みも本格化してきました。

最古の芝居小屋が「地域の宝」に

琴平町での着地型観光におけるストーリー作りの原点となったのは、1985年にスタートした「こんぴら歌舞伎」です。

その前年にテレビ番組の撮影で訪れた歌舞伎の看板役者3人が、同町にある現存する最古の芝居小屋と言われる金丸座に「目ぼれ」し、年に二度、大物歌舞伎俳優が金丸座で歌舞伎を上演する「四国こんぴら歌舞伎大芝居」として定着。琴平町の観光に新たな光を当てた催しは、今年で32回目を迎えます。

「金丸座の仕掛けはすべて手動ですが、演劇に関しては全くの素人であるボランティアの人々が集まって公演を成功させ、琴平町は、着地型観光の先駆けとまで言われるようになったほどです」(近兼社長)

近年では、こんぴら温泉旅館ホテル協同組合が地域限定旅行業の登録を行い、徒歩・タクシー・バス・体験の4プランで着地型商品を展開。さらに、地域の取り組みとして、湯めぐり手形を活用した「こんぴら温泉郷湯めぐり」や毎年冬に開催される「こんぴら温泉まつり／まんのう公園のイルミネーション」など、着地型観光の多様化を図る工夫が重ねられてきています。